

令和 6 年度訪問看護ステーション連絡協議会九州ブロック会議

日時:令和 6 年 10 月 25 日

場所:鹿児島県医師会館

参加者:木村浩美、坂田百合野

◆鹿児島県訪問看護ステーション協議会会長 牧角寛郎氏

2025 年問題が目前となる中、介護ニーズが高まっていく地域包括ケアの橋渡し役として訪問看護が期待されている。この会議は地域の課題を共有し訪問看護の発展に寄与するものと思っている。

◆意見交換

1)入会率・入会促進のための働きかけ

- ・新しい事業所が多いので近くのステーションから声かけをしてもらっている
- ・他県からの流入が多く、特に全国チェーンは誘っても断られることが多い
- ・BCP や研修など、資料閲覧は会員に限っている
- ・総会の時に新規事業所に参加を促している
- ・精神科特化のステーションの入会メリットが少ない

※入会率 福岡(26%) 熊本(75%) 佐賀(64%) 長崎(70%) 沖縄(40%) 宮崎(60%)

2)訪問看護総合支援センターの設置と連携

- ・設置なし(大分、福岡、宮崎) 看護協会のサポートセンター(沖縄、佐賀) 設置連携あり(熊本)

3)2040 年に向けて訪問看護の役割

- ・就職ガイダンスとインターンシップを実施
- ・BCP、地域 BCP 作成、災害関連ワークショップ、連携協定書、拠点3か所などの取り組み
- ・人材不足、労働環境改善に ICT 利用を進めている
- ・看護協会が行う新人教育プログラムへの協力
- ・無資格者でも出来る仕事のタスクシェア、プラチナナースの活用、定年の廃止
- ・フランチャイズチェーン店の質の低下、苦情の問題

4)南海トラフ地震を想定した支援体制

- ・熊本県に防災センターが出来、九州の拠点となっていく
- ・沖縄では県内完結が前提。コロナ時と同様看護協会内のセンターが相談窓口
- ・地域 BCP を進めていき、協定が進むと良いと思う(福岡)
- ・協議会としての対策はあまり出来ていない(大分、長崎、佐賀、宮崎、鹿児島)

5)オンライン資格確認、請求

- ・端末の準備、ベンダーの待ちが長い、マイナカードを持たない人が多い、山間部に電波届かない

◆次期開催:大分県